

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）カナガワ	フリガナ）ケイエイ	フリガナ）ユキモト セイキ
神奈川大学	経営学部	行本 勢基 ゼミ

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）ユトリハン	フリガナ）サイトウ ナツミ	5	無
ゆとり班	斎藤 奈津美		

研究テーマ（発表タイトル）
親子で作る主体性

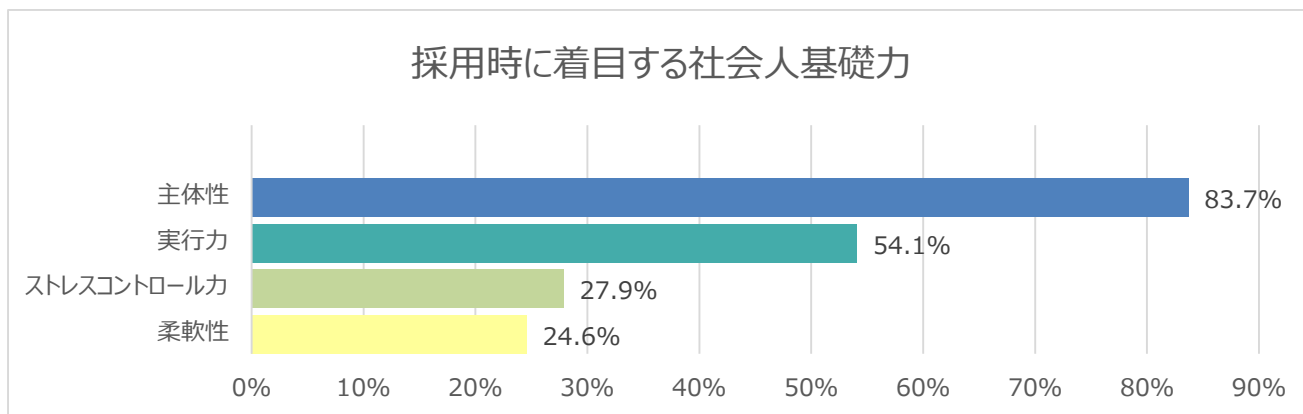
※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

ゆとり班は、小学生が主体性のある人材に育つことを目的として、従来の主体性を育む方法や取り組みを研究した。研究を進めていく過程で、現在実施されている主体性を育む方法や取り組みは、学校・企業・家庭の3つで比較すると、教育機関や企業は子どもだけに焦点を当てた取り組みが多く、親子で育む取り組みが少なかった。また、家庭での取り組みにおいても学校・企業と比較すると家庭ごとにより取り組みが違ってくることから各家庭ごとに意識や取り組む方法が異なる。また、家庭ごとに取り組む方法が異なるからこそ、その方法がわからず家庭で取り組めていない家庭もあるのではないかと予想した。そこで、ゆとり班では親子に焦点を当て、親子二人三脚で子どもの主体性を育ませることで、より主体性を持った人材に成長させることはできないかと仮定した。ゆとり班は、親子参加型のイベントを実施し、この仮定を検証、立証したことの研究成果を発表する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

昔から若者には様々なものが求められている。それらは、時代の変化や社会の変化、考え方の変化などと同様に、求められているものも変化し続けている。下記グラフである「日経キャリア教育 net」の行ったアンケート結果によると、現在の日本の社会は若者に「コミュニケーション能力、実行力、決断力、主体性」求めていることがわかる。その中で最も若者に求められているものは“主体性”である。主体性を育むための取り組みは、若者が幼少の頃より学校教育や企業等が実行してきた。しかし、未だに求められ続けているということは、主体性の定着が不十分と社会からはみなされていることがわかる。つまり、今までの主体性を育むための体制では不十分である。以上が現状分析である。



N=100 社

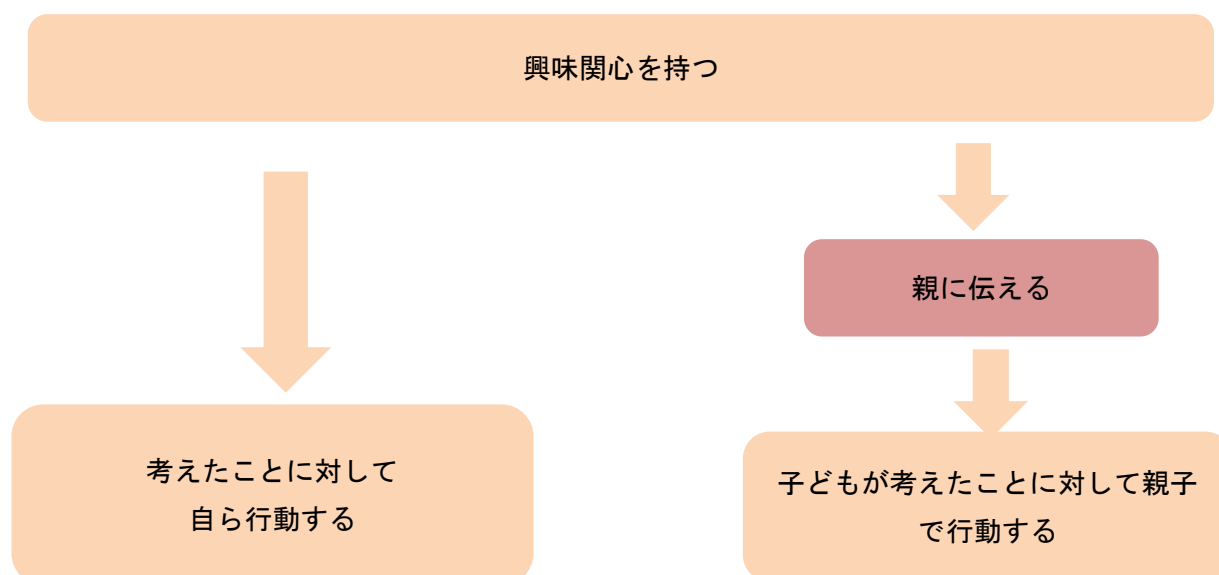
参照：大学教職員のための就業力支援サイト 日経キャリア教育 net. <http://career-edu.nikkeihr.co.jp/contents/all/societ ygym/01.html>

3. 研究テーマの課題

前述したとおり、現在の日本社会は若者に“主体性”を求めている。日本社会は今の若者に幼少期より学校教育や企業等を通して、主体性を育ませようと取り組んできた。例えば、学校教育ではゆとり教育から始まった総合的時間の導入により、生徒に興味・関心を持ったことを自由に学習できる場を提供した。また、学校教育以外の場である職場体験は、子どもが興味・関心を持った企業に訪問し働くことを体験する取り組みがある。つまり、学校教育や企業では取り組みを積極的に行っており促進されている。しかし、現代でも主体性は企業の採用で重視される社会人基礎力のデータから見て分かるように、重要な要素として求められている。つまり企業・教育現場だけでの取り組みを促進するだけでは主体性を育むための対策が不十分であることが課題であるとした。そこで家庭での取り組みを促進することによってより多くの子供に主体性を育むことができるのではないかと仮定した。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

ゆとり班では、主体性の定義を「自ら考え行動する」とし、また、ターゲットは小学生とした。ゆとり班では、小学生の主体性は、まず興味関心を持ち、次に興味関心を持った事に対し自ら行動するものと位置づけた。そこでゆとり班では、この小学生の主体性の一連のプロセスに親を介入させることによって、興味関心を持ち、次に子が親に伝える、最後に親が子どもの後押しをしながら、その子どもが興味関心を持った事に対し考え行動するとすれば、主体性は育むのではないかと考えた。



上記構造は、左記が従来のモデルであり、右記が新しいモデルである。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

研究内容としては、主体性が社会で求められていること、親子での主体性の育成が有効であるか、またその方法を文献や先行研究を用いて研究した。また、神奈川大学湘南平塚キャンパスの教職課程専任の先生に学校の主体性育成の取り組みや家庭での取り組み、また親子で主体性を育むことについて独自性があるなど、数回に渡るインタビューを通してこれらの研究の裏付け

とした。

活動内容としては、主体性の育成が地元企業の協力の下で子ども主体の小さな町を作り、子どもたちが仕事を通じて社会学習を目的とした「ぷちひらつか」というイベントを知った。そこでゆとり班は、さらに子どもの主体性を育む手助けになるようにイベントに親子参加型の新しい企画を提案することを目的として平塚の商工会議所や青年会議所にアポイントを取り、地域共育委員会会長と直接話し合いを行った。その結果、今後大磯や八幡で開かれるイベントへの参加をさせて頂くこととなった。今後としては、“ぷちおいそ”“ぷちやはた”を開くにあたり、事前に開かれる子ども会議や保護者会などに参加する予定である。

6. 結果や今後の取り組み

イベント後のアンケート結果を基にして検証の結果をまとめる。検証することとしては、子に対しては興味関心を持つことができたか。また、親に興味関心を持ったことの内容を伝えることができたか。親に対しては、子どものやりたいことがわかったか。また、伝えられた後どう感じたか。さらに、伝えられて、どう行動しようと思ったか。以上の事を検証した後、ゆとり班が考える親子で作る主体性のプロセスである、子どもが興味関心を持ち、興味関心を持ったことを親に伝え、親が子どもの後押しをしながら、その子どもが自ら考え行動することを立証する。立証後、多くの家庭に親子で作る主体性を浸透させ、多くの子どもに主体性を育ませる。

7. 参考文献

- 一般社団法人 日本経済団体連合会 / Keidanren
<http://www.keidanren.or.jp/japanese/policy/2011/005/honbun.pdf> (参照 2016年7月15日)
- ぷちひらつか-ちいき版- <http://puchi-hiratsuka.com/whats/> (参照 2016年9月9日)
- 文部科学省 <http://www.mext.go.jp/> (参照 2016年5月6日)
- 大学教職員のための就業力支援サイト 日経キャリア教育 net. <http://career-edu.nikkeihr.co.jp/contents/all/societygym/01.html> (2016年9月22日)
- 寺田恭子 (2012) 「親子の主体性育成を目的とする子育て支援に関する一考察」
- 梅田規子 (2011年5月) 富山房インターナショナル 「ことば、この不思議なもの-知と情のバランスを保つには-」

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までをお渡します。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。